

投資その他の資産

問題集p.49

このページ、非常に重要。 採点箇所に関わるところが多い!

投資その他の資産の意味と種類

分類		勘定科目	貸借対照表の表示科目	備考（内容は問題集参照）
投資	長期利殖目的	満期保有目的債券	投資有価証券	◎仕訳・決算とも最頻出
		その他有価証券		○決算にて頻出
		長期貸付金		○決算にて頻出
	他企業支配目的	子会社株式	関係会社株式	○仕訳・決算にて頻出
		関連会社株式		△仕訳・決算にて可能性あり
その他の長期性資産		長期前払費用		○決算にて頻出。出題時の正答率低い
		破産更生債券等		×あまり出ない
その他		不渡手形		△仕訳・決算にて可能性あり 他の項目で説明。

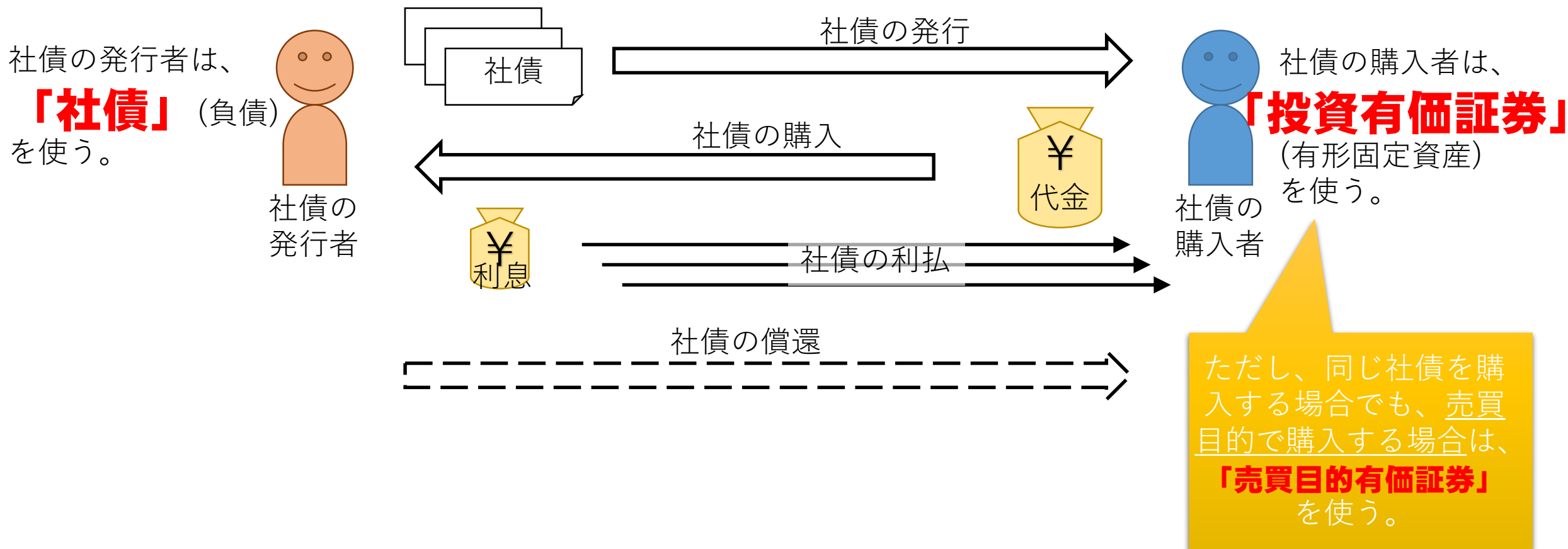
決算の際、注意。**勘定科目によって、貸借対照表の項目が変わる！**
 今まであった例：「繰越商品」→「商品」と同じパターン

満期保有目的債券について→社債と一緒に考えると覚えやすいです。

なぜか？

2級の社債は会社の外部から資金を借入れるため発行する（利息は払う）。
のに対し、満期保有目的債券は他社が発行した社債を買い取り利息を受け取る。

↓
「対の関係」にあるため。（「売掛金」と「買掛金」の関係と同じ）



社債について復習しましょう。

社債(2級範囲)は、出題パターンが6種類です。
既習範囲なので、細かいところは直接問い合わせてください。

社債を発行して資金を借り入れる(2級)

①発行時	(現金) / 社債	←①額面 × 単価 ÷ 100
②利払時	社債利息 / (現金)	←②額面 × 年利 × (÷ 2 : 年2回の利払の時のみ)
③決算時	社債利息 / 社債	←③[額面 - (額面 × 払込価額 ÷ 100)] ÷ 年数
④満期償還時	社債 / (現金)	←④額面
⑤抽選償還時	社債 / 未払社債	←⑤額面
⑥買入償還時	社債 / (現金)	

社債償還損or社債償還益

↑⑥「社債」 = $\frac{\text{額面} \times \text{単価} \div 100}{\text{発行(購入・①)時の価格}} + \frac{\{[\text{額面} - (\text{額面} \times \text{払込価額} \div 100)] \div \text{年数} \times \text{決算回数}\}}{\text{決算ごとに増加した額 (③} \times \text{購入から償還までの決算の回数)}}$

↑⑥「(現金)」 = $\text{額面} \times \text{買入(売却)価額} \div 100$

↑⑥「社債償還損」「社債償還益」 = 「社債」と「(現金)」の差額。金額の少ない側が借方なら「社債償還損」貸方なら「社債償還益」を入れる。

他社が発行した社債を購入するとき、3級では「有価証券」勘定をつかいました。会計では購入目的により、もう少し細かく細分します。満期まで保有して社債に関する利息をすべてもらいたいときは「満期保有目的債券」を使用し、売買目的の場合は「売買目的有価証券」を使います。**基本的に両者の計算方法は同じ**なので、連動して覚えると良いでしょう。

ここで、社債を発行した側と、社債を購入した側との相関関係を表すと、こうなります。

社債を発行して資金を借り入れる(2級)

- | | |
|--------|--------------|
| ①発行時 | (現金) / 社債 |
| ②利払時 | 社債利息 / (現金) |
| ③決算時 | 社債利息 / 社債 |
| ④満期償還時 | 社債 / (現金) |
| ⑤抽選償還時 | 社債 / 未払社債 |
| ⑥買入償還時 | 社債 / (現金) |
| | 社債償還損or社債償還益 |



社債を購入して利息or売買益を得るために資金を貸し付ける(会計)

- | | |
|--------|---------------------------|
| ①購入時 | 満期保有目的債券 / (現金) |
| ②利受時 | (現金) / 有価証券利息 |
| ③決算時 | 満期保有目的債券 / 有価証券利息 |
| ④満期償還時 | (現金) / 満期保有目的債券 |
| ⑤抽選償還時 | 仕訳なし |
| ⑥買入償還時 | (現金) / 満期保有目的債券
有価証券利息 |

※売買目的で購入した場合は満期保有目的債券の代わりに「**売買目的有価証券**」が入る。

⑥買入償還時、売買目的有価証券なら、

(現金) / 売買目的有価証券
有価証券売却益

となる。

※⑤は未払社債が払われるときに、④と同じ仕訳が発生する。

その他有価証券について

売買目的有価証券・満期保有目的債券・子会社株式・関連会社株式のいずれにも属さない株式を
「その他有価証券」(有形固定資産)とします。

決算の際に時価で評価します。(3級の有価証券と同じだね!)

3級の場合、決算時に評価が変わると、 $\frac{\text{有価証券}}{\text{有価証券評価益}}$
または、 $\frac{\text{有価証券評価損}}{\text{有価証券}}$
をしましたが、その他有価証券の場合こうなります。

【金額が上がっているとき】

$\frac{\text{その他有価証券}}{\text{その他有価証券評価差額金}}$

【金額が下がっているとき】

$\frac{\text{その他有価証券評価差額金}}{\text{その他有価証券}}$

仕訳は難しくないです。**間違えやすいのはここから！**

3級の有価証券評価益・評価損はそれぞれ収益・費用の勘定なので、損益計算書に転記します。
ですが、**「その他有価証券評価差額金」**は全然違うところに転記します。
それは、**貸借対照表に転記**します。この勘定は、**資本(純資産)の勘定**なので、資本金の近くに転記します。

長期貸付金について

長期貸付金はここに書かれている形ではほとんど出題されません。違う形で出題されるのが多いので、そちらを確認します。

例 (決算時)長期貸付金 300 のうち、200 は6ヶ月後に返済期限が来ることになっている。

仕訳 **短期貸付金 200 / 長期貸付金 200**

※この仕訳後の長期貸付金残高は $300 - 200 = 100$ になる。
これが検定問題で出てくることがあります。

長期貸付金は「**投資その他の資産**」ですが、短期貸付金は「**その他の流動資産**」となります。

この行↑の言っていることがいまいちなら、**今すぐ問題集p. 9へ!** このページも最重要ページです!

子会社株式・関連会社株式について

子会社株式・関連会社株式は、他企業を支配するために購入した株式を指します。ビジネス基礎で、株式会社の最高意思決定機関は「株主総会」で、株主の持っている株数が議決権となることは習っていますよね！

50%以上株式を持っていれば、その企業を実質的に支配している状態となります。株式が分散所有されている場合は、50%以下でも筆頭株主になれたり、強い議決権を持つことが出来ます。

そのため、50%以上の株式を保有している場合「子会社株式」を、それ未満の時は「**関連**会社株式」を使い、貸借対照表には「**関係**会社株式」の項目でまとめて記載します。赤字のところを間違いやすいので、注意してください。

子会社株式・関連会社株式は取得原価で評価しますが、時価が著しく下落した場合は評価替えを行います。

評価替えの仕方

p.50 1 2 - 2 参照

子会社である株式会社A商会の財政状態が下記のように著しく悪化したので、保有する同社の株式120株(1株の帳簿価額¥65,000)を実質価額によって評価替えした。なお、同社の発行済株式数は200株であり、時価の把握はきわめて困難である。

【資料：BSより抜粋】 諸資産60,000,000 諸負債55,000,000 資本金5,000,000

ポイント：A商会の発行済株式は200株。当社が保有している株式はそのうち、120株。

まず、A商会の株式の実質価額を確認します。

1株の実質価額 = $\frac{\text{その会社の純資産額}}{\text{その会社の発行済株式数}}$

なので、 $5,000,000 \div 200 \text{株} = @¥25,000$

当社の帳簿上の価格は@¥65,000ですから、 $65,000 - 25,000 = 40,000$ も下落しています。
当社が保有している株数は120株なので、 $40,000 \times 120 \text{株} = 4,800,000$ 分評価を下げます。

仕訳

子会社株式評価損4,800,000／子会社株式4,800,000
となります。

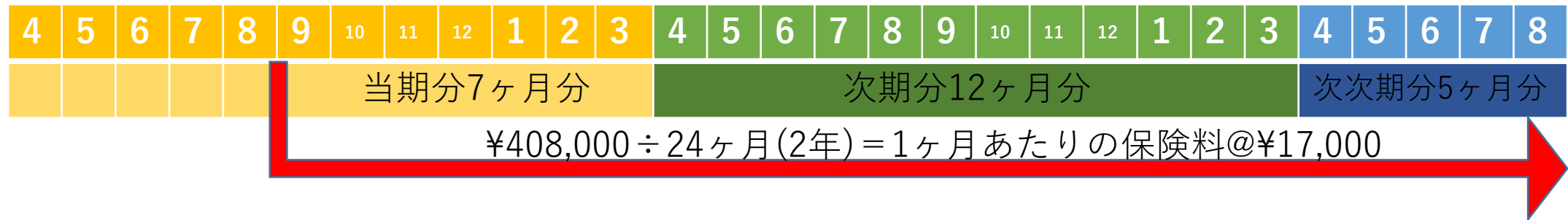
子会社株式評価損は費用の勘定科目なので、損益計算書に記載することが出来ます。
(特別損失)

長期前払費用について

決算整理仕訳で、こういう問題が出たら正答率が低くなる、といわれています。

例（会計期間は○1年4月1日～○2年3月31日である。）

保険料前払高：保険料のうち¥408,000は、○1年9月1日から2年分の保険料として支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。



次期分が「前払保険料」
@17,000 × 12ヶ月 = 204,000

次次期分が「長期前払費用」
@17,000 × 5ヶ月 = 85,000

仕訳

前払保険料 204,000 / 保険料 289,000
長期前払費用 85,000

振り替える
のは、
17ヶ月分

破産更生債券等・不渡手形

破産更生債券等は、出てきたのを見たことがないので、p.51 1 2 - 3 (4)だけやっとけば良いです。

不渡手形は、問題集ではここに出てきていませんが、決算整理の時に、付記事項の仕訳で出てくることがあります。仕訳の内容は2・3級の範囲と同じです。

最近の検定の出題傾向として、**2・3級の仕訳の出題範囲を決算の付記事項の仕訳として出す**ことが多いので、随時復習が必要です。